

目次

1	挨拶	理事長	長瀧敏郎	32	粹なBARの ご利用方法	会長	東司丘興一
3	新ホステス心得 パートI	仕事の心得		34	お客様の北新地の思い		
8	与代目 桂春團治氏 スペシャルインタビュー			36	MBS毎日放送アナウンサー 上泉雄一氏		
12	粹なクラブの ご利用方法	副会長	山名和枝	42	ホステス・お客様あるある		
14	当協会ママさんの思い出			44	ドレスコード一考		
20	上質な社交場で お客様との日々	副理事長	小阪則子	45	北新地発 数々の語源		
22	四代目 中村鷹治郎氏 スペシャルインタビュー			46	北新地社交料飲協会(KRK) HISTORY		
26	新ホステス心得 パートII	接客の心得		48	あとがき	副理事長	藤田一彦

◆◆ 新ホステス心得 パートI ◆◆

仕事の心得

人はなぜ仕事をするのでしょうか？
 生きる糧を得る手段として…、
 自分の可能性を見つけるため…、
 自分の目標達成のため…などなど、
 その理由は人それぞれ。
 しかし、同じ仕事をするなら、
 それが生きがい、
 やりがいにつながるものである方が、
 あなたの人生を豊かに、
 実りあるものにしてくれることは
 間違いないでしょう。

■接客のプロフェッショナル

人生は想った通りになる。
想った通りにならないのは、
まだ想い方が足りないからだ。

プロと言われる人は、

誰よりも豊富な知識と経験を持つ。
しかも、それは与えられたものではなく、
自分の努力で獲得したものである。

プロは、何よりもその仕事が好きである。
しかし、好きがゆえに苦しみも倍加する。
そして、その苦しみを乗り越え、
向上し続けることに限りない生きがいを感じるのである。

プロは、言い訳をしない人だ。
言い訳とは、責任を自分以外の原因に
転嫁させることだ。

プロとは、どのように仕事をしたか
ではなく、どのような仕事をしたかによって
評価される。

プロとは、常に現状に満足せず
自己革新を図る人である。
だから、3カ月経って何の変化もなければ、
すでに仕事人とは呼べない。

■プロフェッショナルの哲学

プロは、ひたすら基本原則を
繰り返す。創造とは、繰り返しの中から
生まれることを知っているからだ。

マンネリは、自分で脱する他に方法が
ないことをプロは知っている。

そして、マンネリは自分の甘えから
生まれることも知っている。

プロは、どんな些細なことにも
常に全力を奮って立ち向かう。

プロは、最大の敵が自分自身で
あることを知っている。

プロは、常に新しい知識を
得ることに貪欲である。

プロには休息がない。
しかし、ゆとりは十分にある。

プロでも過去は変えられない。
けれども、自分と未来は変えられる。

■プロフェッショナルへの条件

人よりも多くの時間を仕事のために使う。時間は誰にも平等に与えられ、そして最も貴重な、お金では買えない資源である。説得力を身に付けよ。説得の第一歩は他人の話を真剣に、一生懸命に聴くことから始まる。

新聞やニュースをよく読め。そこには一人前になりたい人に必要な99%の知識と話題が、そして、考えるヒントがいつばいある。

誰よりも豊富な情報を自分の力で集めよ。アンテナを張り巡らせば情報が入ってくる。

■アマチュア

経験の浅い人は、マイナス状況に陥るとそれに輪をかけてマイナスにしてしまう。マイナスをプラスに変えることができる人を、プロという。

一般人は他人の評価に左右されがちだ。プロは他人の意見は聞くが、自分で価値判断を下す。

経験の浅い人は、これがあるからできないと思う。一方プロは、これを解決すればできると考える。

悩むより、まず体を動かせ。じっとしては妄想ばかりで、智恵も出てこない。

身銭を切れ。自分の向上のためには惜しみなく投資せよ。形ある物はいつか無くなるが、身に付いた智恵はいつまでも残る。

具体的な目標の人物を身近なところで見つけよ。そして、その人に追いつき、追い越す努力をせよ。追い越したら、さらに高い目標となる人物を目指せ。

一人前になろうと思うなら、少なくとも3年間は全力投球してみよ。それでもダメだったら、そこで初めて諦めよ。それまでは決してわき見をするな。

素人の範囲では、どんなに上手くできても、それは模倣に過ぎない。独創性がなければ一人前とは言えない。

経験の浅い人は、変化が生じた時ダメだと思う。プロは、変化が生じた時チャンスだととらえる。

素人は、いつもやり直しができると思う。プロは、いつもこれが最後だと一期一会の精神で臨む。

経験の浅い人は仕事以外に生きがいを持つ。プロは、仕事そのものに生きがいを持つのである。